

柿生文化

柿生郷土史料館 情報・研究誌
 住所:川崎市麻生区上麻生 6-40-1
 柿生中学校内
 電話:070-1503-6401,044-988-0004
 http://web-asao.jp/hp2/k-kyoudo
 第117号

シリーズ川崎の歴史を知ろう!
 「川崎の文化財」-16

麻生区内における旧都筑郡地域の古代の様子を想像してみよう(2) ~墨書土器が出土している旧都筑郡地域の遺跡①~

川崎市教育委員会事務局文化財課学芸員 栗田 一生

前回は、川崎市域の旧都筑郡内は、古代多くの道が通る交通の要衝であったことや、その道沿いの遺跡から出土した墨書土器をもとに、この地域の古代の様子を想像することができるかもしれないこととお話し、個々の遺跡について紹介しつつ、当時この地域がもっていた地域的・地理的な意味を想像してみることにしました。

そこで今回からは、右図に示した遺跡のうち、この地域の古代を明らかにする上で重要な遺跡を主に紹介し、その後、各遺跡の調査成果から見るこの地域の古代の様子を考えてみたいと思います。

①古沢都古東遺跡(図 1- ①)

古沢都古東遺跡は、新百合ヶ丘駅北側の丘陵上に位置する麻生区古沢字都古に所在しています。2009(平成 21)年から 2010(平成 22)年にかけて3回発掘調査が実施されています。調査の結果、第1地点で平安時代(9世紀前葉~10世紀初頭)の竪穴建物 15 軒、掘立柱建物 2棟などが検出されるとともに、「山」と書かれた墨書土器が出土しています(図 2-1)。

②山口台遺跡群上台遺跡(図 1- ②)

山口台遺跡群上台遺跡は、柿生駅北東側に位置する麻生区上麻生4丁目地内に所在しています。山口台土地区画整理事業に伴い1983(昭和 58)年~1984(昭和 59)年に発掘調査が実施されました。調査の結果、縄文時代、古代、中・近世の遺構・遺物が確認されていますが、そのうち古代については、奈良時代~平安時代(8世紀前葉~11世紀初頭)の竪穴建物 26 軒、掘立柱建物 17 棟などが検出されるとともに、「山」と書かれた墨書土器が出土しています(図 2-2・3)。

③上麻生日光台遺跡(図 1- ③)

上麻生日光台遺跡は、柿生駅北東側に位置する麻生区上麻生5丁目地内に所在しており、2005(平成 17)年度~2012(平成 24)年度に5回の発掘調査が実施されています。調査の結果、縄文時代中期中葉~後葉、古代の遺構・遺物が発見されています。そのうち古代については、奈良時代~平安時代(8世紀中葉~11世紀中葉)の竪穴建物 17 軒、掘立柱建物 28 棟などが検出されるとともに、「山口」・「山」・「口」と書かれた墨書土器が出土しています(図 2-4~12)。

今回は、この3遺跡を紹介しました。これら遺跡からは、同じ文字が書かれた墨書土器が出土しているなど、類似性が見られますが、そのあたりについては、また今度お話ししたいと思います。(つづく)

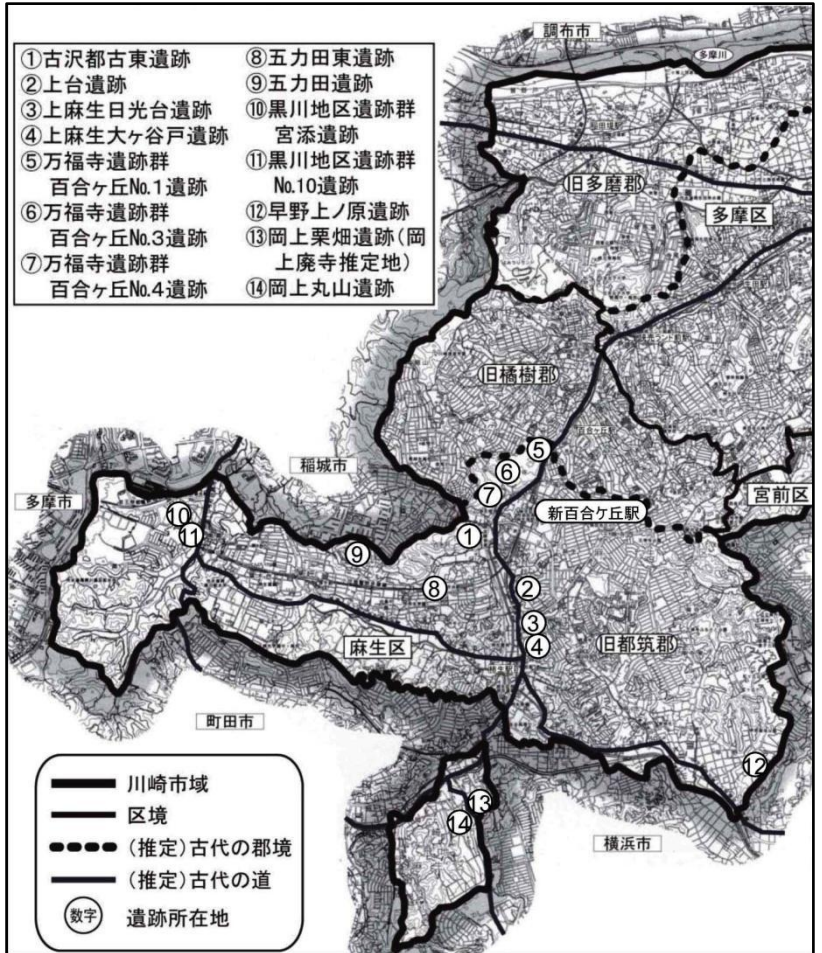


図1 麻生区における古代の郡境(推定)と旧都筑郡地域の主な古代遺跡

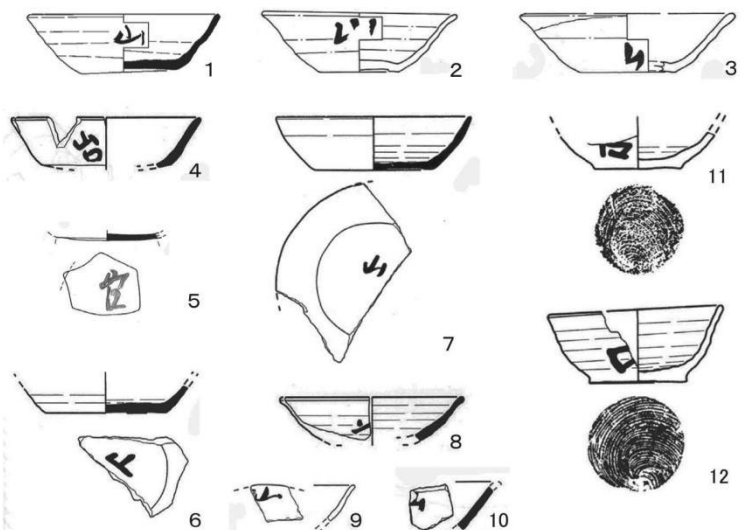


図2 遺跡から出土した墨書土器(1:古沢都古東遺跡、2・3:山口台遺跡群上台遺跡、4~12:上麻生日光台遺跡)

シリーズ
「麻生の歴史を探る」 第87話

久末義民騒動

小島 一也 (遺稿)

江戸幕府は慶安二年(1649)「慶安のお触書」なるものを交付いたします。これは農民には年貢の納入を義務付け、衣服は木綿、米を食わず麦飯を食えと日常生活にも及んだもので、「胡麻の油と百姓は搾れば搾るほど出る」とされ、一方、村々に知行を得た武士達は直参旗本として江戸にお屋敷を拝領、知行地の年貢の徴収権、領民支配権を得て、お殿様となりますが、元禄(1688～)の頃になると年貢に苦しみ疲弊する村々と華やかな江戸の町では生活の格差を造り出し、どこの村でも年貢の賦課を巡って領主と農民の間には確執が起こります。その特異なものが久末義民騒動でした。

この久末村の年貢騒動は「久末義民地蔵物語」として、今も民話に残る世にも不思議な事件で、事の起こりは、元禄六年(1693)久末村領主佐橋内蔵之助佳純から、村の検地の石高が前回より100石も多い329石と示されたことから始まります。これまでの久末村の石高は229石で、村では驚き何かの間違ひではと村の世話人を佐橋邸に差し向けますが帰ってきません。不思議に思って名主の「嘆願書」を携えて代表3名が江戸に向かいますがこれも帰らず、村では3度、4度と「訴状」を持った農民が佐橋邸に向かい、その数20名。そのいずれもが消息を絶ってしまいます。そうした中、奇跡的に生還した者が一人あり、その者によって他の19名は佐橋邸の牢で餓死したと告げられ、村内は騒然となります。

一方、佐橋佳純は貞享二年(1685)江戸四谷大番町に拝領屋敷を持つ旗本で、屋敷には牢などの備えはなく、久末村のほか相模国大山の大住村などに600石の知行地を持ち、知行地の一つ、江戸荏原の戸越では善政を施したといわれ、当時この佳純は眼病を患い、政務は用人に任せ放しだったとの説はあるものの比較的良きお殿様であったようです。

この久末村事件少し前の延宝八年(1680)、幕府は先の慶安のお触書の反省からか、知行地を持つ旗本に、「民は国の元也、常に民の辛苦を察し、飢寒等の憂いなきよう……」の意の「代官心得」を公布しています。当時の久末村の農民構成は、地主14戸、本百姓(屋敷を持つ農家)22戸、自小作農家33戸、貧農(田畑所有なし)41戸で極めて貧しい村だったといわれ、それを佐橋家が知らぬ筈はなく、この事件の結果は「領民を塗炭の苦しみに陥れた悪代官」と佐橋佳純は糾弾されますが、不思議なことに家禄没収、御家断絶のお咎めはなく、奇妙なことに、事件の翌年(元禄七年)久末村名主が「久末村重郎右衛門、先年至極不行届きにて村方追放」の沙汰を受け、さらに不思議なことはその翌々年(元禄九年)佐橋佳純は、新たに埼玉郡内に新領200石の知行地を得ています。

これは事件の責任を名主一人に負わせての收拾策で真実はどうであったのでしょうか…。年貢や助郷の負担に苦しむ当時の村や農民にとって「検地」は死活の問題でした。多摩川を遠く離れた山村の久末の地には多少の隠田や新田の開発もあったでしょうが、それが19名の命に値するものか、その理由が全く謎で、そこに村の窮乏を救おうとした犠牲者を捧げる義民のいわれがありました。



蓮花寺の宝篋印塔

事件から50年後の延享三年(1746)、久末村妙法寺の辻に村人によって



妙法寺の石地蔵

石地蔵が建立されます。これが久末義民地蔵の始まりで、続いて明和元年(1764)久末村の古刹蓮花寺に19名の菩提を弔う高さ2m余の宝篋印塔に氏名が刻まれ追善供養され、さらに前記石地蔵は寛政元年(1789)「義民賛歌」が刻まれて改修。現在、高津区久末の天台宗妙法寺には保存されてきた数体の義民地蔵が小屋掛けして納められ供養の香華が絶えぬそうです。

一方、領主だった佐橋佳純は宝永二年(1705)没し、知行地の菩提寺でもあるこの妙法寺にも墓を持ちますが、維新後何者かによって墓は荒らされ、今はその姿はないとのこと。ちなみに、佐橋家の久末村知行は幕末まで続き、石高は川崎市史によると376石だったようです。

参考資料:「高津物語(鈴木穆)」「川崎史話(小塚光治)」「川崎市史」

シリーズ
教育の歩み 第1部

学校の誕生と成長(5)

小林 基男(柿生郷土史料館専門委員)

◆学生の団体と教授の団体◆

学生たちは、どうして家主を相手に、強気の姿勢を取ることが出来たのか。それは当時の大学には決まった校舎がなかったからです。講義は教授の家だったり、教会の柱廊、広場など、その都度場所を選んで、都合の良いところで行われていたのです。一例をあげると、少し前までのパリ大学のことを、ソルボンヌと呼んでいたことをご存知の方も多いと思いますが、これはパリ大学に最初の学寮を自ら建設して寄贈し、貧しい神学生に宿舍を提供したソルボン司祭の名をとって、学寮はソルボンヌと呼ばれるようになり、この学寮の前で行われた講義が人気を集め、他寮の学生も次第にここに集まるようになったことから、パリ大学と言えばソルボンヌと言われるようになったからなのです。

団結した学生たちは、その気になれば何処にでも大学を移すことが出来たのです。13世紀の初頭に発足したアレツツォやシエナなどの大学は、学生たちの集団移住に依って誕生したとされています。こういうわけですから、結果はもう想像できますよね。ポーニャでの家賃交渉は、学生側の圧勝に終わりました。こうして団結した学生たちの鋒先は、やがて教授たちにも向かいました。そのいきさつを記す前に、教授の身分と立場について、記しておきましょう。

大学の教員ですが、当初は特に資格があったわけではなく、誰でも講義や授業を始めることが出来たのです。カリキュラムがあるわけでもなく、開講している科目を学生が勝手に受講するシステムだったからです。現在のピアノ教室やバレエ教室、会話教室などのように、1回の受講料がいくらというシステムだったのです。この受講料が教授の収入でした。ですから、講義が面白くなければ、誰も受講しなくなるため、そうした教員は、消えていったのです。

さて、ポーニャでの家賃交渉に、団結の力で勝利した学生たちは、次には鋒先を教授たちに向けました。闘争手段は、集団での授業ボイコット、いわば学生たちのストライキです。今年で50年を迎えるフランスの五月革命や日本の学園闘争では、このストライキの手段として、全学封鎖や一部建物の占拠などが必要でしたが、教室が整っていない当時あっては、ストライキも簡単なものでした。それでも教授たちの生活は、学生の受講料で成り立っていましたから、授業ボイコットの効果は絶大でした。ボイコットはたちどころにメシの食い上げに直結するからです。それでは、いったい学生たちは、どのような要求を掲げていたかを見てみましょう。

これが何となく、今の学生にも見習って欲しいような、実に学ぶことに意欲満々な内容なのです。いくつか例をあげましょう。

1. 教授は学生の許可なく、みだりに講義を休んではならない。市外に赴く必要のある時は、学生に担保(課題の事でした)を課すべし。
2. 教授は始鈴と共に講義を始め、終鈴と共に退出すること。
3. 教授は講義を飛ばしてはならない。
4. 難問を説明不能のままにして、退出してはならない。
5. 講義は全体をカバーしなければならない。

どうですか。教授の能力不足や手抜きに対する弾劾とも言える内容がほとんどです。教授陣にとっても、これは深刻な問題提起でした。大学は学生の集まる所なら、どこにでも出来ます。その学生たちは、聴きごたえのある講義を展開する、尊敬できる教授たちを切望し、納得できる師を求めて、どこにでも移動して行きます。優秀な教授がいたとしても、1人で集め得る学生には限りがあります。優秀な教授が揃ってこそ、数多くの学生が集まり、自分自身の講義を受講する学生も増え、生活も安定するのです。こうして、教授先生たちも、学生に習って組合を作り、同業者の質を落とさないように、新入教員に対する厳格な資格審査を課すようになってゆきます。

学生の中からもやがて教授を目指す者が出てきます。或いは教授資格を持つことで、宗教界での出世を目指そうとする者も出てきます。こうした希望を持つ者に対する教授資格の賦与・認定が教授の組合に、一定の権威を齎すことになりました。これが、今日における学位号授与の起源となったのです。

(続く)



パリ大学に学生のための学寮を建設したソルボン司祭

ポーニャ大学での法学の講義風景
1冊の写本を学生に見せている

平成29年度法人会員ご紹介 平成29年12月31日現在 (昇順、敬称略)

当館の活動を支えていただき、深く感謝いたします。

柿生郷土史料館は地域の皆様のご支援とご協力により運営しております。

- ◆(有)青戸建材店 ◆(学)川崎青葉幼稚園 ◆(株)あかもと本舗 ◆(有)アクティブ
- ◆(株)麻生自動車 ◆(医)麻生総合病院 ◆朝日ホーム ◆飛鳥典禮 ◆(有)荒川電気工事
- ◆柿生アルナ園 ◆(有)栄和 ◆エムケープリント ◆王禅寺 ◆(有)柿生恒産
- ◆(福)柿生保育園 ◆(学)柿の実幼稚園 ◆川崎信用金庫 柿生支店 ◆(株)観財
- ◆菊川園 ◆(株)北島工務店 ◆(有)孝友商事 ◆琴平神社 ◆サイトー農芸 ◆栄運輸(株)
- ◆JA セレサ川崎柿生支店 ◆常安寺 ◆(有)白百合商事 ◆(株)スズユウ商事
- ◆ステップオン ◆誠和産業(株) ◆(株)タカミ ◆(医)たま日吉台病院 ◆月読神社
- ◆(株)ティエムコーポレーション ◆(学)桐光学園 ◆(株)とん鈴
- ◆長瀬土地家屋調査士事務所 ◆奈良工業 ◆中華料理 福永 ◆(株)富士建材
- ◆プライマリー(株) ◆ベリーパーク in フィッシュオン! 王禅寺 ◆喫茶ベル
- ◆フラワーショップまきば ◆まつや ◆(有)山義産業 ◆(有)ユーコーポレーション
- ◆リック設計企画(有) ◆美容室 Lucir (ルシル) ◆小料理わかば ◆和光大学

柿生郷土史料館催物案内 【入場無料】

◎開館日:奇数月は毎日曜日、偶数月は毎土曜日 (原則として月4回)

2月 3・10・17・24日(毎土曜日)

3月 4・11・18・25日(毎日曜日)

◎開館時間:午前10時～午後3時

第73回 カルチャーセミナー

常安寺の歴史と魅力

『名刹 王禅寺』の著者が、上麻生の常安寺について、新発見の未発表資料を駆使して詳しくお話し下さいます。

講師：三輪 修三氏 (郷土史研究家 元日本民家園園長)

日時：3月25日(日) 午後1時30分～3時30分

会場：柿生郷土史料館特別展示室

第74回 カルチャーセミナー

中世の杉山神社の史料を考える

(内容詳細未定)

講師：中西 望介氏 (戦国史研究会会員)

日時：4月28日(土) 午後1時30分～3時30分

会場：柿生郷土史料館特別展示室

柿生郷土史料館友の会へのお誘い

柿生郷土史料館では友の会への入会を常時受け付けております。手作り史料館に参画しませんか。会員には「柿生文化」の送付や各種イベントへの優先受付などの特典を用意しております。この機会にぜひ入会をご検討ください。

詳細は直接当館にお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。